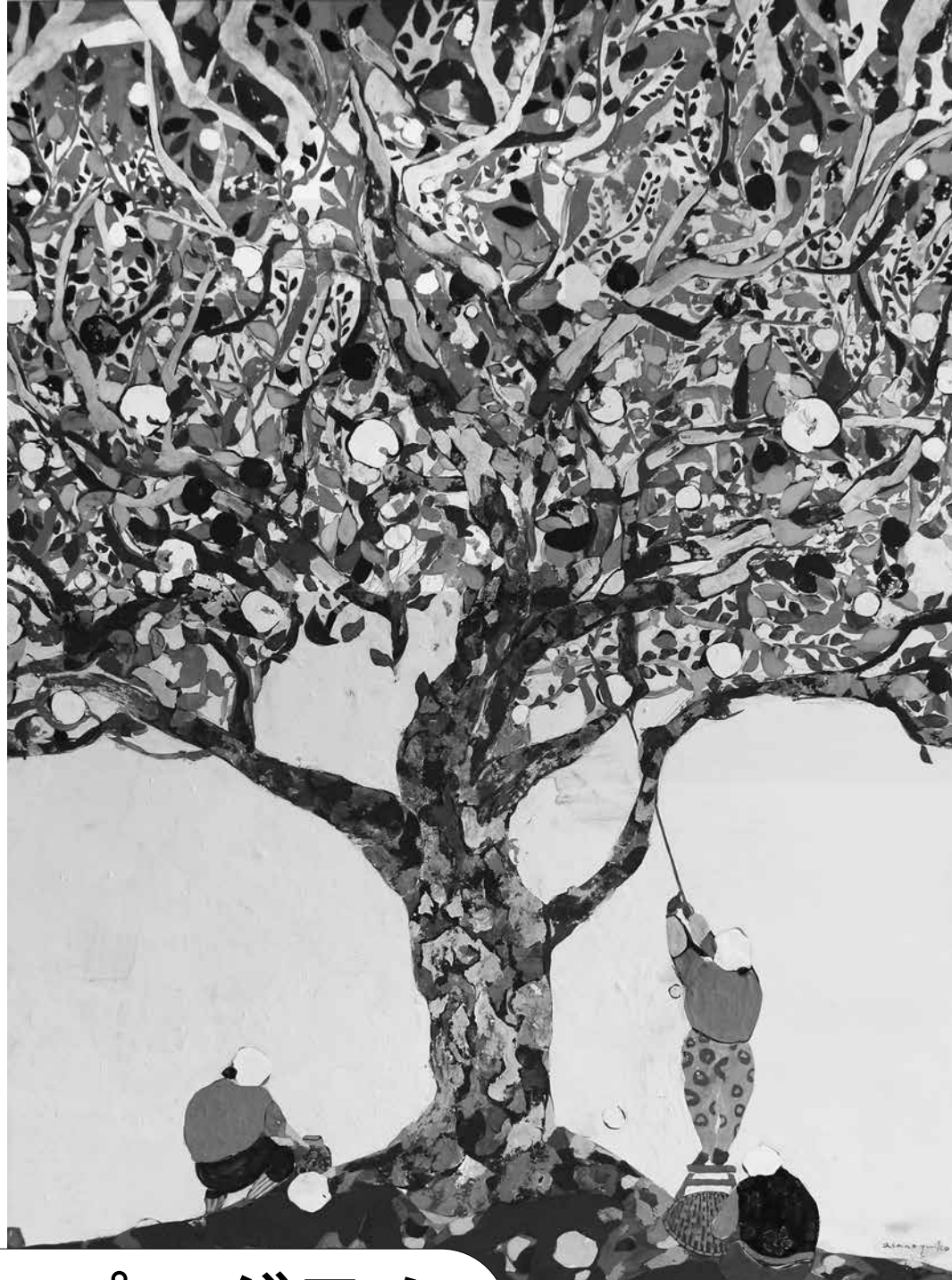


亦 又 わ り は じ め た 「 山 ・ ひ と 」 ・ 「 街 」

木
林
の
価
値
を
今
へ
つ
合
う



「ウメコさんの梅干し」2016 ©浅野友理子

プログラム

主催 | 「森林と市民を結ぶ全国の集い2018 in 東京」実行委員会
公益社団法人 国土緑化推進機構

後援 | 林野庁／一般社団法人 日本林業協会／美しい森づくり全国推進会議／
全国町村会／全国市長会／全国森林組合連合会／上智大学

連携開催 ソフィアシンポジウム 2018

「SDGsの実現に向けて：森の生態系サービスを活かした持続可能な地域づくり」

基調講演 | ピーター・ベッソー 国連森林フォーラム 第12期議長
エリン・ケリー フンボルト州立大学 准教授

主催 | 上智大学大学院地球環境学研究科・上智大学地球環境研究所

「森林と市民を結ぶ全国の集い2018 in 東京」



開催趣旨

1996年よりスタートした「森林と市民を結ぶ全国の集い」は、これまでに森林ボランティア団体をはじめ、森林に関心のある市民による情報交換などを目的として、1年に1回全国各地で開催し、今回で22回目を迎えます。

この約20年の間に、森林の価値・機能への関心は、国内だけでなく世界的にも高くなっています。国連で採択された、持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成される「持続可能な開発目標（SDGs）」においても、目標の達成には、森林の持続可能な管理の推進が不可欠とされています。

森林率の高い日本では、今、様々なアプローチから森林の価値が見直され、人々の暮らしにおける森林の重要性が再認識されてきています。新たな価値観に基づき、森林や木を活かそうとする動きも各地で活発化しており、山と街との関係は変化し始めています。

森林を取りまく様々な社会的状況が変化中、山とつながる人々はどんなアクションをしていくべきでしょうか。また、そのつながりを通じてSDGsの達成に貢献できることはどんなことでしょうか。持続可能な社会を形づくっていくために、森林をどう維持・管理していくか、また森林の恵みをいかに活用していくかを市民の視点から考えることが重要です。

今回の「全国の集い」は、都市住民、農山村住民、また双方を行き来する人たちが、これからの森林利用・管理に向けた、ビジョンを共有していくための議論・意見交換の場として開催します。多様に広がる森との触れ合い方・利活用の事例を共有し、多方向に情報が拡散することで新たなムーブメントが起こるきっかけにしたいと思います。

また、森や地域づくりに関わる世界的動向を共有し、関心のある市民をはじめ、研究者や学生などに向けて国内・海外の先進事例を発信し、議論する機会をつくらうという思いから、「SDGsの実現に向けて」をテーマにした上智大学主催の「ソフィア・シンポジウム」も開催されます。「全国の集い」と合わせて実施することで、グローバルかつローカルに展開する持続可能な社会に向けたアクションや意識を、さらに拡大させていくことを願っております。

22回目を迎える今年の集いについて

「森林と市民を結ぶ全国の集い」は、各地で活動する森林ボランティア団体の情報交換や課題などを語りあう場として、またより多くの人が森とかかわるきっかけづくりの場として、1996年から開催してきました。今回が第22回となります。

	開催地	日程	テーマ
第1回	東京	1996.2/16~18	市民が支える森林づくり
第2回	東京	1997.3/1~2	「市民が支える森林づくり」の実現をめざして
第3回	大阪	1998.2/21~22	「市民が支える森林づくり」の新たな合意をめざして
第4回	宮城	1998.12/5~6	「市民が支える森林づくり」の新たな活動の広がりをめざして
第5回	高知	1999.8/19~22	山の中で考えよう!「みんなで支える森林づくり」私たちがめざすべきものは何か
第6回	東京	2000.9/15~17	暮らしとともに築く森づくり
第7回	広島	2001.2/9~11	新世紀 森林づくり・地域づくり・人づくり ーよりよき関わりを求めてー
第8回	群馬	2002.9/14~16	ともに森を治める社会をつくりだすために 森と人と未来のための群馬ビジョン
第9回	北海道	2003.11/1~4	地域に根ざした森林とのおつき合い 森林づくりの現在を理念から行動へ
第10回	東京	2004.9/18~20	森とともに創るこれからの社会
第11回	愛知	2005.8/26~28	森がうごく、人がうごく。そしてネットワークへ。森と人との関係をさらに深める。
第12回	大阪	2006.11/11~12	みんなが創る森づくり 森と共に生きる社会をめざして ~参加から協働へ~
第13回	福岡	2008.3/8~9	暮らしにつながる森づくり
第14回	東京	2009.12/5~6	今、あらためて問う「森林」の価値
第15回	岐阜	2011.6/4~5	裏木曾の森を歩こう
第16回	東京	2011.10/9~10	世界森林アクション・サミット
第17回	島根	2012.11/2~4	神在月に集え!島根へ! ~森林と木を活かす縁結び~
第18回	東京	2014.3/22~23	暮らしとつなげる森林の恵み ~都市の視点から考える
第19回	福島	2015.6/12~14	東北復興に果たす森林の役割と市民活動
第20回	東京	2016.6/11~12	温故知森 ~森と私たちを結ぶ新たな道~
第21回	京都	2017.6/10~11	伝統ー森林ー未来へ ~森林と関わる暮らしの歴史を学ぶ~

実行委員

赤池 円	私の森.jp 編集長	
石山 恵子	遊学の道Project 代表	
内山 節	NPO法人 森づくりフォーラム	実行委員長
小野 なぎさ	一般社団法人 森と未来 代表理事	
鹿住 貴之	認定NPO法人 JUON(樹恩) NETWORK 理事・事務局長	副実行委員長
後藤 洋一	NPO法人 樹木・環境ネットワーク協会 事務局長	
坂本 有希	フェアウッド・パートナーズ(一般財団法人 地球・人間環境フォーラム)	
嶋田 俊平	株式会社さとゆめ 代表取締役	
関 友美	NPO法人 共存の森ネットワーク	
高山 康秀	日本全国スギダラケ倶楽部	
富永 茂	公益社団法人 国土緑化推進機構 政策企画部長	
中島 大輔	自伐林家/NPO法人 青梅林業研究グループ	
松浦 成夫	NPO法人 時ノ寿の森クラブ 理事長	
黛 友梨	林業女子会@東京	
三柴 淳一	フェアウッド・パートナーズ(認定NPO法人 FoE Japan)	
水谷 伸吉	一般社団法人 モア・トゥリーズ 事務局長	
山岸 貴生	NPO法人 地球緑化センター 事業部長	
柴田 晋吾	上智大学 教授・大学院地球環境学研究科委員長	監事
水野 梓	林野庁 森林利用課 山村振興緑化推進室 課長補佐	オブザーバー
中沢 和彦	NPO法人 森づくりフォーラム	事務局
宮本 至	NPO法人 森づくりフォーラム	事務局長

全国の集い2018 スケジュール

6.16 土

12:00 ~ 13:00	受付	中央図書館 9階 L-911教室(地図A)
13:00 ~ 13:30	開会式	
13:30 ~ 14:45	基調講演 田中輝美 関係人口をつくる ~ 変わりはじめた「山」・「ひと」・「街」~	
14:45 ~ 15:00	休憩(15分)	
15:00 ~ 17:00	パネルディスカッション これからの「森林」と「市民」の関係	中央図書館 9階 L-911教室(地図A)
17:00 ~ 17:30	各分科会の紹介	
18:00 ~ 20:00	交流会	主婦会館プラザ・エフ(地図D)

6.17 日

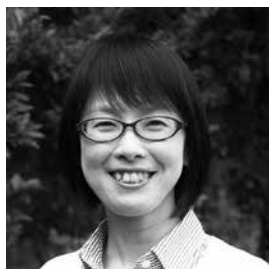
9:00 ~ 9:30	受付	2号館 4階(地図B)
9:30 ~ 12:30	分科会 第1分科会「癒やす」 (404教室) 第2分科会「活かす」 (405教室) 第3分科会「暮らす」 (406教室) 第4分科会「育む」 (407教室)	2号館 4階 404~407教室(地図B)
12:30 ~ 13:30	昼食(1時間)	
13:30 ~ 14:15	各分科会報告 学生レポーター発表 まとめ:内山 節	6号館 1階 101大教室(地図C)
14:15 ~ 14:30	閉会式	

連携開催 ソフィアシンポジウム 2018

14:30 ~ 15:00	受付	6号館 1階 101大教室(地図C)
15:00 ~ 17:40	シンポジウム、パネルディスカッション	

関係人口をつくる ～変わりはじめた「山」・「ひと」・「街」～

森林と市民を結ぶ活動の中では、交流人口をいかに増やし、そして、定住人口に結びつけるかということも、大きなテーマとなっています。しかし、最近では「関係人口」という、「観光以上、定住未満」と言われ、交流人口でも定住人口でもない新しい概念も生まれてきました。関係人口とは、どのような考え方なのか、また、これからの森林づくり活動に、どのように活かすことができるのか、関係人口の提唱者にお話をうかがいます。



たなかてるみ

田中 輝美 ローカルジャーナリスト <http://www.tanakaterumi.com/>

ローカルジャーナリスト。島根県浜田市生まれ。大阪大学文学部卒業後、山陰中央新報社で記者をしながら地域で働く喜びに目覚める。2014年退社し、独立。著書に『関係人口をつくる一定住でも交流でもないローカルイノベーション』（木楽舎）『ローカル鉄道という希望—新しい地域再生、はじまる』（河出書房新社）など。2017年大阪大学人間科学研究科修士課程修了。一般社団法人日本ジャーナリスト教育センター（JCEJ）の運営委員も務める。

これからの「森林」と「市民」の関係

現在、森林ボランティア活動は多様化していますが、担い手の高齢化という問題も表れてきました。また、山村地域や林業においても、過疎化、高齢化の問題はますます深刻になっています。

一方で、地域おこし協力隊の増加や、林業就業者の若年者率の上昇など、明るい兆しも見えてきました。そして、全国各地で、森林・林業・山村に関わる新たな取り組みも始まっています。

そこで、このパネルディスカッションでは、基調講演での「関係人口」という考え方も踏まえ、これまでとは違った、新しいタイプの「山」と「街」を結ぶ活動の事例を通して、これからの「森林」と「市民」の関係について考えます。

パネラー

いとうひろし

伊藤 洋志

仕事づくりレーベル「ナリワイ」代表／全国床張り協会 会長

てづかさやか

手塚 さや香

釜石地方森林組合／釜援隊

もりたあかね

森田 朱音

株式会社おおち山くじら 代表取締役

コーディネーター

さしでかずまさ

指出 一正

月刊「ノトコト」編集長

コメンテーター

うちやまたかし

内山 節

森林と市民を結ぶ全国の集い 2018in 東京 実行委員長
哲学者 森づくりフォーラム代表理事

たなかてるみ

田中 輝美

ローカルジャーナリスト



いとう ひろし
伊藤 洋志

仕事づくりレーベル「ナリワイ」代表／全国床張り協会 会長
<https://nariwaibook.tumblr.com/>

京都大学農学研究科修士課程修了。遊びと仕事が一体化した頭と体が鍛えられる仕事をテーマに、ナリワイの開発と実践を行う。遊撃農家などの個人事業形態の開発実践を行う他、ギャラリースペース・シェアアトリエや「全国床張り協会」といったギルド的団体の運営も行う。著書「ナリワイをつくる」（東京書籍）は、韓国でも翻訳出版された。



てづかさやか
手塚 さやか

釜石地方森林組合／釜援隊
<http://kamamorikumi.jp/>

全国紙記者を退職後、2014年より岩手県釜石市の復興支援員組織・釜石リージョナルコーディネーター協議会所属。釜石地方森林組合に派遣され人材育成事業「釜石大槌パークレイズ林業スクール」の立ち上げや、東日本大震災で被災した山林所有者を支援するための植樹活動のコーディネートなどを行っている。



もりたあかね
森田 朱音

株式会社おおち山くじら 代表取締役
<http://yamakujira.jp/>

福岡県福岡市出身。九州大学大学院農業資源経済学科修了後、マーケティング会社で地域づくりのコーディネーター業に従事。2014年に島根県美郷町に地域おこし協力隊として移住。獣害対策をきっかけに地元農家が立ち上げたイノシシ肉の事業を継承し、2017年に(株)おおち山くじらを起業。現在3名の移住者でイノシシ肉の製造販売を行う。

パネルデイスカッション メンバープロフィール



さしでかずまさ
指出 一正

月刊「ソトコト」編集長
<http://www.sotokoto.net>

1969年群馬県生まれ。上智大学法学部国際関係法学科卒業。雑誌『Outdoor』編集部、『Rod and Reel』編集長を経て、現職。島根県「しまコトアカデミー」メイン講師、高知県文化広報誌『とさぶし』編集委員、静岡県『「地域のお店」デザイン表彰』審査委員長、奈良県「奥大和アカデミー」メイン講師、奈良県下北山村「奈良・下北山 むらコトアカデミー」メイン講師、長野県長野市WEBメディア『ナガラボ』編集長、福井県大野市「越前おおのみずコトアカデミー」メイン講師をはじめ、地域のプロジェクトに多く携わる。まち・ひと・しごと創生本部「わくわく地方生活実現会議」委員。著書に『ぼくらは地方で幸せを見つける』（ポプラ新書）。趣味はフライフィッシング。



うちやまたかし
内山 節

森林と市民を結ぶ全国の集い 2018in 東京 実行委員長
哲学者 森づくりフォーラム代表理事
<https://www.moridukuri.jp/>

「森林と市民を結ぶ全国の集い2018 in 東京」実行委員長。1970年代から東京と群馬県上野村の二重生活を続けながら、在野で、存在論、労働論、自然哲学、時間論において独自の思想を展開する。著書に『新・幸福論 近現代の次に来るもの』『森にかよう道』『「里」という思想』『日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか』『戦争という仕事』『文明の災禍』『内山節著作集』全15巻 ほか。

都市に住まう人びとは森に向かう理由を「癒やされるから」だといいます。「癒やされる空間」とはどんなところでしょうか？この分科会では、森林の「居心地」について、樹木葬、森林療法、タイニーハウスなどの事例をヒントに、幅広い観点から考えてみたいと思います。



ウエスギセイタ YADOKARI株式会社 代表 <http://yadokari.net/>

住まいと暮らし・働き方の原点を問い直し、これからを考えるソーシャルデザインカンパニー「YADOKARI」。暮らしに関わる企画、不動産・タイニーハウス開発、空き家・空き地の再活用、まちづくりイベント・ワークショップなどを主に手がける。著書に「ニッポンの新しい小屋暮らし」「アイム・ミニマリスト」「未来住まい方会議」「月極本」などがある。



うえだひろふみ 上田 裕文 北海道大学 観光学高等研究センター 准教授 <http://www.cats.hokudai.ac.jp/staff/1045/>

東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻修了後、ドイツ学術交流会(DAAD)奨学生としてカッセル大学建築・都市計画・景観計画学部、都市・地域社会学科にて経済社会科学博士(Dr.rer.pol.)を取得。札幌市立大学デザイン学部を経て現職。専門は風景計画。著書に、『The Image of the Forest』(Sudwestdeutsche Verlag fur Hochschulschriften, 2010)、『まちづくりのための北のガーデニングボランティアハンドブック』(共著、北海道大学出版会、2014)他。



ふるやえいせい 降矢 英成 精神科・心療内科 赤坂溜池クリニック院長 / NPO法人日本森林療法協会 <http://www.holisticmedicine.jp/> <http://blog.canpan.info/jfts/>

1959年生まれ、東京都出身。東京医科大学卒業。NPO法人日本森林療法協会理事、NPO法人日本ホリスティック医学協会会長。人間を身体だけでなく、body-mind-spiritの視点からとらえる「ホリスティック医学」を理念とするホリスティック医療の実践の場として1997年赤坂溜池クリニックを開設。「森林養生プログラム」にも取り組み、自然治癒力を高めていく活動等も展開中。

コーディネーター



あかいけまどか 赤池 円 有限会社グラム・デザイン 代表取締役 / 私の森.jp 編集長 <https://www.gram.co.jp/> <http://watashinomori.jp/>

1991年オレゴン州立大学を卒業後、ITベンチャーに入社し、クリエイティブ・ディレクションを担当。インターネットの普及を背景に、ウェブデザインの発信力に未来を感じて独立。1998年グラム・デザインを設立し、現在に至る。森林の多面的な価値を社会に役立てたい思いで、日本の森情報を紹介するウェブサイト「私の森.jp」の立ち上げに関わり、編集長を兼任。



おのなぎさ 小野 なぎさ 一般社団法人 森と未来 代表理事 <https://fwithf.org/>

東京農業大学 地域環境科学部 森林総合科学科卒業後、企業のメンタルヘルス改善に関わる事業に携わり、認定産業カウンセラー、森林セラピストの資格を取得。約10年間で、森林を活用した研修プログラムの開発、健康リゾートホテル事業、海外のメンタルヘルス事業の立ち上げを経験。2015年に一般社団法人森と未来を設立、森林を活用した企業研修や地域支援を行なっている。著者に『森ではたらく！27人の27の仕事』がある。

※敬称略 ※プログラムは変更になることがあります。

森の資源活用形態が木造建築、紙製品に加え、民間施設での空間利用やバイオマスエネルギーとして熱・電利用など多様化しています。その変化について山、ひと、街の視点から今後どんな可能性があるのか、私たちは何ができるのかを考えます。

活 かす

森の資源活用の「今」を知る



おおの こうすけ

大野 航輔

株式会社リトル・トリー代表取締役
<https://www.little-tree.biz/>

2013年に山梨県道志村へ地域おこし協力隊として移住。森林整備とバイオマスエネルギー利用のプロジェクト運営を行う。任期終了後、(株)リトル・トリーを設立し、道志村の民有林整備を林業、バイオマス、観光の分野から追及している。



すずき しょうじ

鈴木 正樹

株式会社ハルキ取締役 企画・開発部長 / 木育マイスター道南支部 /
日本全国スギダラケ倶楽部道南支部 <http://mori-haruki.co.jp/>

1972年埼玉県生まれ。北海道青年林業士、北海道認定木育マイスター、森林評価士。2007年に(株)ハルキに入社。製材・プレカットの営業のほか、家具・遊具・準不燃木材の企画・開発などに取組む。日本全国スギダラケ倶楽部の道南支部長として、道南杉を活かした街づくり、多様な木質化プロジェクトを展開、産学官連携病院木質化プロジェクトでは2016年ウッドデザイン賞優秀賞林野庁長官賞を受賞。



たご えいじ

田子 英司

いわき市森林組合 代表理事組合長

昭和53年 東京農業大学林学科を卒業後、家業の農林業に従事。

自伐林家として経営するが、材価の低迷による経営の不安定な状況を克服する為、丸棒加工機を導入し緑化木の販売も加える。平成25年3月より現職。

コーディネーター



さかもと ゆき

坂本 有希

一般財団法人地球・人間環境フォーラム

2002年に国際環境 NGO FoE Japan とともに「フェアウッド・キャンペーン」(現在はフェアウッド・パートナーズ)に改称、<http://www.fairwood.jp> を立ち上げ、日本の木材市場をフェアなものにする活動に取り組む。一貫して日本で暮らす私たちの暮らしが海外の生物多様性に及ぼす影響をいかに低減・配慮していくべきかという視点から調査・普及啓発活動に取り組んでいる。

※敬称略 ※プログラムは変更になることがあります。

都会から山村に向かった人だけでなく、地域にいる人が支援することによって、それが両輪となって山村が動く。両方がうまく行っている事例、地域資源が活かされる事例などについて、自然と共生する山村の暮らしの現代的価値を見出し、ライフスタイル発信、持続可能な事業化に第一線で取り組む方と語り合います。



あおき ゆか

青木 優花

焼畑蕎麦苦楽部(宮崎県椎葉村在住)

広島県出身。自然・生態系への関心から、実際に自然に囲まれた暮らしをしたいという思いを抱き、宮崎県椎葉村の魅力に引かれ、2015年に移住。地域おこしグループ「焼畑蕎麦苦楽部(そばくらぶ)」のメンバーとなり、古来より続く焼き畑の保存伝承に関わっている。山里の知恵や生活文化を吸収しながら、人と自然とが密接につながった暮らしを実践している。



ふくしまじゅんぺい

福嶋 淳平有限会社きたもつく 森林活用事業部 取締役
<http://kitamoc.com>

1980年千葉県千葉市生まれ。2002年有限会社きたもつく入社。2004年株式会社ピカの勤務を経てシステム会社を設立。2009年きたもつくの発展期に軸足を群馬県北軽井沢に移す。2010年冬の寒冷地の楽しみ方の提案から薪ストーブ施工販売事業を立ち上げに携わる。2015年薪の自給事業の立ち上げを行い、2017年より森林資源活用事業として、森林の6次産業化に挑戦中。

コーディネーター



しまだしゅんぺい

嶋田 俊平

株式会社さとゆめ 代表取締役

京都大学大学院農学研究科森林科学専攻修了後、環境系シンクタンク勤務を経て、2013年に株式会社さとゆめを設立。「ふるさとの夢をかたちに」を合言葉に、資源探しから商品開発・販路開拓まで、トコトン地域と伴走するコンサルティングを行う。物語マーケティング手法を活用したワークショップのファシリテーションなど、多くの地域住民、事業者を巻き込んでの「地域住民による地域のための計画づくり」に力を入れている。主な著書には、「森林ボランティア論」(共著、J-FIC)、「火のある暮らしのはじめ方」(共著、農文協)、「星が降るとき〜3.11後の世界に生きる」(共著、New Pacific Press)等がある。

※敬称略 ※プログラムは変更になることがあります。

インターネットを通してさまざまな情報を簡単に知ることができる今、そうした媒体では伝えることができない、森や木のぬくもりにふれる大切さが見直されてきています。「森林環境教育」は森と人との関係をより良いものへと変えていく方法の1つです。子どもたちの情操教育につながる自然体験や森林体験。森が最適な教材であり教育現場だととらえ、その最先端で活動されている方々をお招きし、事例やこれからの課題、そして森林環境教育のさらなる拡がりについて考えます。



たかはしきょうこ

高橋 京子ウレシバモシリ - 保育と自然をつなぐ研究会 - 主宰
<http://ureshipa.jp/>

自然保育コーディネーター。ウレシバモシリ～保育と自然をつなぐ研究会～を主宰。欧州への視察や保育園・幼稚園における自然あそびの実践をとおして得られた知見をもとに、都市の保育環境でもできる、身近な自然の素材を活かした遊びを創作。子どもの五感を刺激し、感性を育むことの重要性や、多様性を持つ自然が子どもの多様な育ちを支え、自己肯定感を高めることを、広範囲の研修会・講演・雑誌等で伝えている。著書に「決定版12か月の自然あそび87」（新星出版社）がある。



たなかそうじ

田中 惣次田中林業株式会社 会長
<http://www.tanaka-forestry.co.jp/>

昭和22年3月4日生まれ、71歳。日本大学林学科卒業。昭和44年卒業と同時に自営業として行っている林学の現場で働き、現在に至る。山の後継者育成にも力を注いでおり、東京都指導林家、檜原森林塾主宰、林業人材育成支援普及センター代表理事なども務めている。著書に「私は森の案内人」（創森社）「本当はすごい森の話」（少年写真新聞社）などがある。森のデザイナーと称して、100年、200年後のおしゃれな山づくり(混交林)を目標に「総合的森林業」として取り組んでいる。



なかだてこうた

中楯 浩太

世田谷区立等々力小学校 教員

社会科教育連盟や東京都・世田谷区小学校社会科研究会等に所属して、社会科教育を中心に研究を進めてきた。子どもに知識を教え込むのではなく、子どもの関心や疑問を大切に「問題解決的な学習」の展開と教師が楽しく学び合える組織づくりに力を注いできた。5年の森林の学習では、実際に青梅の森に数回入って、体感的に学び、その重要性を実感。現在は、持続可能な農業・水産業・林業と教育の連携と小中高の社会科の接続に取り組んでいる。

コーディネーター



いのうえまりこ

井上 真理子国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所 多摩森林科学園 主任研究員

東京都出身。博士（農学）。日本学術会議連携会員。東京都松原村での山仕事体験キャンプ（指導：田中惣次氏）参加をきっかけに、農学部林学科へ進学。東京都高等学校の農業教員（林業）を経て、研究者に転職。専門は森林教育。著書に「森林教育」（海青社）、高等学校教科書「森林経営」などがある。

※敬称略 ※プログラムは変更になることがあります。

「SDGsの実現に向けて： 森の生態系サービスを生かした 持続可能な地域づくり」

6.17日 15:00~17:40 上智大学四谷キャンパス6号館(ソフィアタワー)101教室

- | 主催 | 上智大学大学院地球環境学研究科、上智大学地球環境研究所
- | 後援 | 「森林と市民を結ぶ全国の集い2018 in 東京」実行委員会、
公益社団法人 国土緑化推進機構、上智大学国際協力人材育成センター
- | 会場 | 6号館101教室
- | 言語 | 日本語及び英語（同時通訳あり）
- | 司会進行 | 井上 直己（上智大学大学院地球環境学研究科 准教授）

プログラム

14:30 ~	受付開始
15:00 ~ 15:10	開会挨拶 江馬 一弘（上智大学 学術研究担当副学長）
15:10 ~ 15:40	基調報告1 ピーター・ベッソー（国連森林フォーラム 第12期議長） 「グローバルな政策目標の達成のための地域的アプローチ — 国際モデルフォレストネットワークの20年余の教訓」
15:40 ~ 16:10	基調報告2 エリン・ケリー（フンボルト州立大学 准教授） 「カリフォルニア州における生態系サービスの支払い(PES)のアプローチ — 森林カーボン取引と森林管理経営・土地所有者にとっての意味合い」
16:10 ~ 16:20	休憩(10分)
16:20 ~ 17:30	パネルディスカッション ピーター・ベッソー(国連森林フォーラム 第12期議長)、エリン・ケリー(フンボルト州立大学 准教授)、 ルジラ・ボンブルトン(タイ国生物多様性経済公社課長)、温井 浩徳(横浜市水道局水源林管理所長)、 足立 直樹(株式会社レスポンスアビリティ代表取締役)、水谷 伸吉(more trees 事務局長)、 井原 愛子(MAPLE BASE代表)、柴田 晋吾(モデレーター、上智大学教授)
17:30 ~ 17:40	閉会挨拶 ジョン・ジョセフ・ブテンカラム（上智学院 グローバル化推進担当理事）

上智大学四谷キャンパス キャンパスマップ



※6月17日(日)は北門は終日閉門していますので正門からお入りください。

お願い

- 報告書の記録用に写真を撮影しますが、予めご了承ください。
- 全体会は多数の参加者が予想されますので、横に荷物は置かず、席は詰めてお座りください。
- 会場内は全て禁煙です。喫煙は指定された場所をお願いします。
- ゴミは必ずお持ち帰りください。
- 会場の外にあるオープンスペースは展示コーナーとなります。森林に関わるパンフレットや書籍案内もありますので、ぜひご利用ください。
- 携帯電話の使用につきましては、電源をお切りいただくか、マナーモードにしてください。
- お配りした資料の中にアンケートがございますので、ご記入にご協力をお願いします。アンケートは受付にて回収します。
- 今回のシンポジウムのレポートは森づくりフォーラムホームページに掲載いたします。

森林と市民を結ぶ全国の集い 2018 in 東京 実行委員会

事務局 NPO 法人 森づくりフォーラム

〒113-0033 東京都文京区本郷2-25-14 第一ライトビル405号室
TEL:03-3868-9535 FAX:03-3868-9536

ご意見やご質問等も専用メールをご利用ください。

tsudoim@moridukuri.jp